

平成21年度決算事業評価シート

1 基礎情報

事業名(実施計画)	コミュニティバス運行事業			予算費目	会計	1	一般会計	
事業コード	2-01-04-301				款	8	土木費	
政策名	章	自然と都市機能が調和したうおいのあるまち			項	4	都市計画費	
	節	利便性の高い都市基盤づくり			目	1	都市計画総務費	
施策名	小節	交通			細目	90	交通政策推進事業費	
	施策の方向	公共交通機関の強化・促進			細々目	1	コミュニティバス運行事業費	
担当部課	都市部都市政策課	責任者(課長)	大野木 英夫	内線	2539			

2 事業概要

事務事業名(業務棚卸評価)	コミュニティバスの運行管理(全般)		
事業目的	対象	目的	
	市民及びバス利用者	公共交通の空白地区・不便地区における市民の移動の利便性を向上させるとともに、高齢者、障害者等の移動に制約のある人たちの日常生活上の移動の支援をします。	
事業内容	コミュニティバスえぼし号は、中海岸南湖循環市立病院線、北部循環市立病院線、鶴嶺循環市立病院線、東部循環市立病院線の4路線で運行しています。えぼし号は、今後さらに進展する高齢化社会をにらみながら、公共交通空白・不便地区在住の市民や移動に制約のある人をサポートしつつ、高齢者等の余暇支援や、人の移動に伴う市内商業活性化の役割も担っています。		
事業を取り巻く環境(事業に関する市民等のニーズ、国・県等の動向、社会環境等)	超高齢社会を迎えようとしているなか、公共交通の果たすべき役割はますます高まってきています。このような状況を踏まえ、人に優しいまちを実現するため、コミュニティバスは、既存の鉄道や路線バスでは対応できない交通の空白・不便地区の解消を目的として、茅ヶ崎市乗合交通整備計画に位置づけられた8路線の内、4路線について運行しています。		
市民参加と協働の活用	沿線の自治会と協力、連携して運行改善を実施しています。		
根拠法令、国の方針・計画等	ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン、茅ヶ崎市乗合交通整備計画		

3 コスト・財源

		20年度(決算)	21年度(決算)	22年度(予算)	
事業に係るコスト	直接事業費	財源内訳			
		国県支出金(千円)			
		地方債(千円)			
		その他(千円)			
		一般財源(千円)	10,249	6,611	6,079
	A 事業費(千円) : (予算に対する執行率)	10,249 79.2 %	6,611 64.4 %	6,079 %	
	概算人件費	人件費			
		常勤職員数	0.51 人	0.73 人	0.91 人
		常勤職員人件費(千円)…①	4,590	6,570	8,190
		非常勤・臨時職員数	人	0.08 人	0.08 人
非常勤・臨時職員人件費(千円)…②			80	80	
B 人件費(千円)…①+②	4,590	6,650	8,270		
総コスト(千円)…A+B	14,839	13,261	14,349		

4 目標・実績

事業に係る活動の目標及び実績	指標名	単位	20年度			21年度			22年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
	コミュニティバス運行に関する協定の締結(4路線)	式	目標	20.4.1締結		21.4.1締結		22.4.1締結			
			実績	20.4.1締結		21.4.1締結					
			達成率	100.0 %		100.0 %					
	利用者の利便性のためのパンフレット等作成達成度(コミュニティバスの周知普及)	部	目標	40,000		30,000		50,000			
			実績	40,000		17,000					
			達成率	100.0 %		56.7 %					
	コミュニティバス待避所のための土地(9箇所)賃貸借契約達成度(コミュニティバスの円滑な運行)	式	目標	20.4.1締結		21.4.1締結		22.4.1締結			
			実績	20.4.1締結		21.4.1締結					
			達成率	100.0 %		100.0 %					
	バス停保守・点検実施バス停数(バス停等施設管理)	箇所	目標	205		205		224			
			実績	205		205					
			達成率	100.0 %		100.0 %					
車体広告募集枠	枠	目標	39		39		39				
		実績	32		26						
		達成率	82.1 %		66.7 %						

平成21年度決算事業評価シート

1 基礎情報

事業名(実施計画)	コミュニティバス運行事業		予算費目	会計	1	一般会計
事業コード	2-01-04-301			款	8	土木費
政策名	章	自然と都市機能が調和したうおいのあるまち		項	4	都市計画費
	節	利便性の高い都市基盤づくり		目	1	都市計画総務費
施策名	小節	交通		細目	90	交通政策推進事業費
	施策の方向	公共交通機関の強化・促進		細々目	1	コミュニティバス運行事業費
担当部課	都市部都市政策課	責任者(課長)	大野木 英夫	内線	2539	

2 事業概要

事務事業名(業務棚卸評価)	コミュニティバス中海岸南湖循環市立病院線の運行管理	
事業目的	対象	目的
	市民及びバス利用者	公共交通の空白地区・不便地区における市民の移動の利便性を向上させるとともに、高齢者、障害者等の移動に制約のある人たちの日常生活上の移動の支援をします。
事業内容	コミュニティバスえぼし号は、中海岸南湖循環市立病院線、北部循環市立病院線、鶴嶺循環市立病院線、東部循環市立病院線の4路線で運行しています。えぼし号は、今後さらに進展する高齢化社会をにらみながら、公共交通空白・不便地区在住の市民や移動に制約のある人をサポートしつつ、高齢者等の余暇支援や、人の移動に伴う市内商業活性化の役割も担っています。	
事業を取り巻く環境(事業に関する市民等のニーズ、国・県等の動向、社会環境等)	超高齢社会を迎えようとしているなか、公共交通の果たすべき役割はますます高まってきています。このような状況を踏まえ、人に優しいまちを実現するため、コミュニティバスは、既存の鉄道や路線バスでは対応できない交通の空白・不便地区の解消を目的として、茅ヶ崎市乗合交通整備計画に位置づけられた8路線の内、4路線について運行しています。	
市民参加と協働の活用	沿線の自治会と協力、連携して運行改善を実施しています。	
根拠法令、国の方針・計画等	ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン、茅ヶ崎市乗合交通整備計画	

3 コスト・財源

			20年度(決算)	21年度(決算)	22年度(予算)	
事業に係るコスト	直接事業費	財源内訳	国県支出金(千円)			
			地方債(千円)			
			その他(千円)			
			一般財源(千円)	7,324	9,407	27,084
		A 事業費(千円):(予算に対する執行率)	7,324 49.4 %	9,407 56.7 %	27,084 %	
	概算人件費	人件費	常勤職員数	0.13 人	0.15 人	0.15 人
			常勤職員人件費(千円)…①	1,170	1,350	1,350
			非常勤・臨時職員数	人	0.08 人	0.08 人
			非常勤・臨時職員人件費(千円)…②		80	80
			B 人件費(千円)…①+②	1,170	1,430	1,430
総コスト(千円)…A+B			8,494	10,837	28,514	

4 目標・実績

		指標名	単位	20年度	21年度	22年度
事業に係る活動の目標及び実績	中海岸南湖循環市立病院線運行負担金支払い	目標	月	10月・3月	10月・3月	10月・3月
		実績	月	10月・3月	10月・3月	
		達成率	%	100.0 %	100.0 %	%
	中海岸南湖循環市立病院線の利用者数(年間)	目標	人	189,800	240,000	223,000
		実績	人	183,319	209,139	
		達成率	%	96.6 %	87.1 %	%
		目標				
		実績				
		達成率	%	%	%	%

5 項目別分析

項目	分析結果	理由
必要性 (市民ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> ①必要性が高い	平成14年5月から運行を開始して以来、毎年利用者数も着実に伸びており、市民の足として定着してきています。また高齢化が進展するなか、環境にやさしく市民の身近な移動手段として期待されています。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④必要性はない	
妥当性 (市が行わなければならないか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①市が行わないといけない	高齢者等の移動支援や交通空白・不便地区解消に対する市民ニーズに対応するため、利便性の高い公共交通を確立していくことが必要であり、市民の日常生活の移動を支援する公共性が高い事業です。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば市が実施	
	<input type="checkbox"/> ③市が行う必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④市が行う必然性はない	
継続性 (引き続き実施する必要があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①継続性が高い	高齢化社会や環境問題等で、今後ますます市民の公共交通に対する関心、需要が高まってくるなかで、今後も引き続きコミュニティバスは、効率的に質の高いサービスを市民に提供していく必要があります。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば継続性がある	
	<input type="checkbox"/> ③継続性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④継続性はない	
効率性 (より効率的な改善が可能か)	<input checked="" type="checkbox"/> ①改善が可能である	コミュニティバスの運行にあたっては、沿線の地元自治会や、運行を委託している民間企業と、それぞれの役割のもとで協力しあいながら事業を進めることが可能です。
	<input type="checkbox"/> ②改善の余地がある	
	<input type="checkbox"/> ③改善の余地が少ない	
	<input type="checkbox"/> ④改善の余地はない	

6 評価

	評価
活動状況 (課題も含む)	<p>中海岸南湖循環市立病院線は、平成14年5月25日より運行を開始し、平成21年度は、240,000人の目標利用者数に対して、209,139人の利用がありました。また平成22年3月25日には、更なる利便性向上を図るため、休日コースをとりやめ平日コースに統一をした運行改善を実施しました。また平成21年度同路線に係る市の負担金が、車両修繕費や車両償却費等の増加に伴い、前年度と比較し約208万円の増加となっており、今後も車両関係費用は増加していくものと考えられます。</p>
評価内容	<p>(事業の方向性 現状維持) 同路線の利用者数は、ここ数年20万人前後と比較的安定した数値となっておりますが、今後老朽化した車両の修繕費や新車投入による車両償却費等車両関係費用の増加が見込まれてくるなか、更なる利用者数向上にむけた対応も必要ではないかと考えています。</p>
	A

平成21年度決算事業評価シート

1 基礎情報

事業名(実施計画)	コミュニティバス運行事業		予算費目	会計	1	一般会計
事業コード	2-01-04-301			款	8	土木費
政策名	章	自然と都市機能が調和したうおいのあるまち		項	4	都市計画費
	節	利便性の高い都市基盤づくり		目	1	都市計画総務費
施策名	小節	交通		細目	90	交通政策推進事業費
	施策の方向	公共交通機関の強化・促進	細々目	1	コミュニティバス運行事業費	
担当部課	都市部都市政策課	責任者(課長)	大野木 英夫	内線	2539	

2 事業概要

事務事業名(業務棚卸評価)	コミュニティバス北部循環市立病院線の運行管理	
事業目的	対象	目的
	市民及びバス利用者	公共交通の空白地区・不便地区における市民の移動の利便性を向上させるとともに、高齢者、障害者等の移動に制約のある人たちの日常生活上の移動の支援をします。
事業内容	コミュニティバスえぼし号は、中海岸南湖循環市立病院線、北部循環市立病院線、鶴嶺循環市立病院線、東部循環市立病院線の4路線で運行しています。えぼし号は、今後さらに進展する高齢化社会をにらみながら、公共交通空白・不便地区在住の市民や移動に制約のある人をサポートしつつ、高齢者等の余暇支援や、人の移動に伴う市内商業活性化の役割も担っています。	
事業を取り巻く環境(事業に関する市民等のニーズ、国・県等の動向、社会環境等)	超高齢社会を迎えようとしているなか、公共交通の果たすべき役割はますます高まってきています。このような状況を踏まえ、人に優しいまちを実現するため、コミュニティバスは、既存の鉄道や路線バスでは対応できない交通の空白・不便地区の解消を目的として、茅ヶ崎市乗合交通整備計画に位置づけられた8路線の内、4路線について運行しています。	
市民参加と協働の活用	沿線の自治会と協力、連携して運行改善を実施しています。	
根拠法令、国の方針・計画等	ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン、茅ヶ崎市乗合交通整備計画	

3 コスト・財源

事業に係るコスト	直接事業費	財源内訳	20年度(決算)		21年度(決算)		22年度(予算)	
			金額	率	金額	率	金額	率
		国県支出金(千円)						
		地方債(千円)						
		その他(千円)						
		一般財源(千円)	35,711		36,664		38,516	
	A 事業費(千円):(予算に対する執行率)	35,711	85.3 %	36,664	99.6 %	38,516	%	
	概算人件費	人件費	常勤職員数	0.21 人		0.15 人		0.15 人
			常勤職員人件費(千円)…①	1,890		1,350		1,350
			非常勤・臨時職員数	人		0.08 人		0.08 人
			非常勤・臨時職員人件費(千円)…②			80		80
		B 人件費(千円)…①+②	1,890		1,430		1,430	
総コスト(千円)…A+B		37,601		38,094		39,946		

4 目標・実績

事業に係る活動の目標及び実績	指標名	単位	20年度			21年度			22年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
	北部循環市立病院線運行負担金支払い	月	目標	10月・3月		10月・3月		10月・3月			
			実績	10月・3月		10月・3月					
			達成率	100.0 %		100.0 %		%			
	北部循環市立病院線の利用者数(年間)	人	目標	38,325		56,000		50,000			
			実績	49,653		48,841					
			達成率	129.6 %		87.2 %		%			
			目標								
			実績								
			達成率	%		%		%			

5 項目別分析

項目	分析結果	理由
必要性 (市民ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> ①必要性が高い	平成18年3月から運行を開始して以来、徐々にではありますが市民の足として定着してきています。また高齢化が進展するなか、環境にやさしく市民の身近な移動手段として期待されています。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④必要性はない	
妥当性 (市が行わなければならないか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①市が行わないといけない	高齢者等の移動支援や交通空白・不便地区解消に対する市民ニーズに対応するため、利便性の高い公共交通を確立していくことが必要であり、市民の日常生活の移動を支援する公共性が高い事業です。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば市が実施	
	<input type="checkbox"/> ③市が行う必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④市が行う必然性はない	
継続性 (引き続き実施する必要があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①継続性が高い	高齢化社会や環境問題等で、今後ますます市民の公共交通に対する関心、需要が高まってくるなかで、今後も引き続きコミュニティバスは、効率的に質の高いサービスを市民に提供していく必要があります。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば継続性がある	
	<input type="checkbox"/> ③継続性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④継続性はない	
効率性 (より効率的な改善が可能か)	<input checked="" type="checkbox"/> ①改善が可能である	コミュニティバスの運行にあたっては、沿線の地元自治会や、運行を委託している民間企業と、それぞれの役割のもとで協力しあいながら事業を進めることが可能です。
	<input type="checkbox"/> ②改善の余地がある	
	<input type="checkbox"/> ③改善の余地が少ない	
	<input type="checkbox"/> ④改善の余地はない	

6 評価

		評価
活動状況 (課題も含む)	北部循環市立病院線は、平成18年3月21日より運行を開始し、平成21年度は、56,000人の目標利用者数に対して、48,841人の利用がありました。また平成22年3月25日には、利便性向上及び運行経費縮減を図るため、「芹沢台田コース」と「堤八王子原コース」を統合した「小出循環コース」を新設し、平日の最終便と休日の全便に運行する改善を実施しました。また平成21年度同路線に係る市の負担金が、利用者数の減少による収入減により、前年度と比較し約95万円の増加となっています。同路線は、もともと沿線人口が多くないことから、今後の大幅な利用者数の増加が見込めないことが課題です。	A
評価内容	(事業の方向性 現状維持) 平成21年度に行った改善により、平日は1日21便から20便、休日は21便から12便へと本数を減少したことにより、今後は利用状況に見合った運行経費となることが期待されます。今後この路線については、地域住民の意見をうかがいながら、デマンド方式や乗合タクシー等新たな交通システム導入も含め検討していく必要があると考えています。	

平成21年度決算事業評価シート

1 基礎情報

事業名(実施計画)	コミュニティバス運行事業		予算費目	会計	1	一般会計
事業コード	2-01-04-301			款	8	土木費
政策名	章	自然と都市機能が調和したうるおいのあるまち		項	4	都市計画費
	節	利便性の高い都市基盤づくり		目	1	都市計画総務費
施策名	小節	交通		細目	90	交通政策推進事業費
	施策の方向	公共交通機関の強化・促進		細々目	1	コミュニティバス運行事業費
担当部課	都市部都市政策課	責任者(課長)	大野木 英夫	内線	2539	

2 事業概要

事務事業名(業務棚卸評価)	コミュニティバス鶴嶺循環市立病院線の運行管理	
事業目的	対象	目的
	市民及びバス利用者	公共交通の空白地区・不便地区における市民の移動の利便性を向上させるとともに、高齢者、障害者等の移動に制約のある人たちの日常生活上の移動の支援をします。
事業内容	コミュニティバスえぼし号は、中海岸南湖循環市立病院線、北部循環市立病院線、鶴嶺循環市立病院線、東部循環市立病院線の4路線で運行しています。えぼし号は、今後さらに進展する高齢化社会をにらみながら、公共交通空白・不便地区在住の市民や移動に制約のある人をサポートしつつ、高齢者等の余暇支援や、人の移動に伴う市内商業活性化の役割も担っています。	
事業を取り巻く環境(事業に関する市民等のニーズ、国・県等の動向、社会環境等)	超高齢社会を迎えようとしているなか、公共交通の果たすべき役割はますます高まってきています。このような状況を踏まえ、人に優しいまちを実現するため、コミュニティバスは、既存の鉄道や路線バスでは対応できない交通の空白・不便地区の解消を目的として、茅ヶ崎市乗合交通整備計画に位置づけられた8路線の内、4路線について運行しています。	
市民参加と協働の活用	沿線の自治会と協力、連携して運行改善を実施しています。	
根拠法令、国の方針・計画等	ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン、茅ヶ崎市乗合交通整備計画	

3 コスト・財源

事業に係るコスト	直接事業費	財源内訳	20年度(決算)		21年度(決算)		22年度(予算)		
			金額	率	金額	率	金額	率	
		国県支出金(千円)	6,800		6,800		3,400		
		地方債(千円)							
		その他(千円)							
		一般財源(千円)	26,192		25,607		39,348		
	A	事業費(千円):(予算に対する執行率)	32,992	94.7 %	32,407	90.2 %	42,748	%	
	概算人件費	人件費	常勤職員数	0.38 人		0.15 人		0.15 人	
			常勤職員人件費(千円)…①	3,420		1,350		1,350	
			非常勤・臨時職員数	人		0.08 人		0.08 人	
			非常勤・臨時職員人件費(千円)…②			80		80	
		B	人件費(千円)…①+②	3,420		1,430		1,430	
		総コスト(千円)…A+B	36,412		33,837		44,178		

4 目標・実績

事業に係る活動の目標及び実績	指標名	単位		20年度	21年度	22年度
				目標	実績	目標
	鶴嶺循環市立病院線運行負担金支払い	月	目標	10月・3月	10月・3月	10月・3月
			実績	10月・3月	10月・3月	
			達成率	100.0 %	100.0 %	%
	鶴嶺循環市立病院線の利用者数(年間)	人	目標	22,995	31,000	43,000
			実績	22,198	28,497	
			達成率	96.5 %	91.9 %	%
			目標			
			実績			
			達成率	%	%	%

5 項目別分析

項目	分析結果	理由
必要性 (市民ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> ①必要性が高い	平成19年12月から運行を開始して以来、徐々にではありますが市民の足として定着してきています。また高齢化が進展するなか、環境にやさしく市民の身近な移動手段として期待されています。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④必要性はない	
妥当性 (市が行わなければならないか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①市が行わないといけない	高齢者等の移動支援や交通空白・不便地区解消に対する市民ニーズに対応するため、利便性の高い公共交通を確立していくことが必要であり、市民の日常生活の移動を支援する公共性が高い事業です。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば市が実施	
	<input type="checkbox"/> ③市が行う必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④市が行う必然性はない	
継続性 (引き続き実施する必要があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①継続性が高い	高齢化社会や環境問題等で、今後ますます市民の公共交通に対する関心、需要が高まってくるなかで、今後も引き続きコミュニティバスは、効率的に質の高いサービスを市民に提供していく必要があります。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば継続性がある	
	<input type="checkbox"/> ③継続性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④継続性はない	
効率性 (より効率的な改善が可能か)	<input checked="" type="checkbox"/> ①改善が可能である	コミュニティバスの運行にあたっては、沿線の地元自治会や、運行を委託している民間企業と、それぞれの役割のもとで協力しあいながら事業を進めることが可能です。
	<input type="checkbox"/> ②改善の余地がある	
	<input type="checkbox"/> ③改善の余地が少ない	
	<input type="checkbox"/> ④改善の余地はない	

6 評価

	評価
活動状況 (課題も含む)	A
評価内容	

鶴嶺循環市立病院線は、平成19年12月22日より運行を開始し、平成21年度は、31,000人の目標利用者数に対して、28,497人の利用がありました。また平成21年度同路線に係る市の負担金が、利用者数増加による収入増から、前年度と比較し約58万円の減少となっています。毎年利用者数は増加しているものの、4路線の中では最も利用者が少なく、沿線の地域住民の皆様とのグループインタビューにおいては、主に片方向の大循環ルートであるため使いづらいこと、茅ヶ崎駅北口付近までの乗り入れを希望している意見が多かったことから、これらの要望を取り入れた改善を検討しました。

(事業の方向性 現状維持)
平成20年度において実施しました沿線住民の皆様とのグループインタビューの結果を基に、片方向の大循環から南と北の2コースに分けてそれぞれ往復するコースへの変更や、茅ヶ崎駅北口付近までの乗り入れを重点的に実施する改善を平成22年度に実施できるよう検討してきました。今後、この大きな改善を実施することにより、行き帰りの乗車時間の違いが解消されるとともに、茅ヶ崎駅北口付近への乗り入れによって利用者数も大きく増える可能性が高いと考えています。

平成21年度決算事業評価シート

1 基礎情報

事業名(実施計画)	コミュニティバス運行事業		予算費目	会計	1	一般会計
事業コード	2-01-0-4301			款	8	土木費
政策名	章	自然と都市機能が調和したうおいのあるまち		項	4	都市計画費
	節	利便性の高い都市基盤づくり		目	1	都市計画総務費
施策名	小節	交通		細目	90	交通政策推進事業費
	施策の方向	公共交通機関の強化・促進	細々目	1	コミュニティバス運行事業費	
担当部課	都市部都市政策課	責任者(課長)	大野木 英夫	内線	2539	

2 事業概要

事務事業名(業務棚卸評価)	コミュニティバス東部循環市立病院線の運行管理	
事業目的	対象	目的
	市民及びバス利用者	公共交通の空白地区・不便地区における市民の移動の利便性を向上させるとともに、高齢者、障害者等の移動に制約のある人たちの日常生活上の移動の支援をします。
事業内容	コミュニティバスえぼし号は、中海岸南湖循環市立病院線、北部循環市立病院線、鶴嶺循環市立病院線、東部循環市立病院線の4路線で運行しています。えぼし号は、今後さらに進展する高齢化社会をにらみながら、公共交通空白・不便地区在住の市民や移動に制約のある人をサポートしつつ、高齢者等の余暇支援や、人の移動に伴う市内商業活性化の役割も担っています。	
事業を取り巻く環境(事業に関する市民等のニーズ、国・県等の動向、社会環境等)	超高齢社会を迎えようとしているなか、公共交通の果たすべき役割はますます高まってきています。このような状況を踏まえ、人に優しいまちを実現するため、コミュニティバスは、既存の鉄道や路線バスでは対応できない交通の空白・不便地区の解消を目的として、茅ヶ崎市乗合交通整備計画に位置づけられた8路線の内、4路線について運行しています。	
市民参加と協働の活用	沿線の自治会と協力、連携して運行改善を実施しています。	
根拠法令、国の方針・計画等	ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン、茅ヶ崎市乗合交通整備計画	

3 コスト・財源

事業に係るコスト	直接事業費	財源内訳	20年度(決算)		21年度(決算)		22年度(予算)	
			金額	率	金額	率	金額	率
	財源内訳	国県支出金(千円)						
		地方債(千円)						
		その他(千円)						
		一般財源(千円)	33,977		32,550		30,652	
	A 事業費(千円):(予算に対する執行率)	33,977	142.8 %	32,550	88.1 %	30,652	%	
	概算人件費	人件費						
		常勤職員数	0.38 人		0.15 人		0.15 人	
		常勤職員人件費(千円)・・・①	3,420		1,350		1,350	
		非常勤・臨時職員数	人		0.08 人		0.08 人	
			非常勤・臨時職員人件費(千円)・・・②		80		80	
	B 人件費(千円)・・・①+②	3,420		1,430		1,430		
	総コスト(千円)・・・A+B	37,397		33,980		32,082		

4 目標・実績

事業に係る活動の目標及び実績	指標名	単位		20年度	21年度	22年度
				目標	実績	目標
	東部循環市立病院線運行負担金支払い	月	目標	10月・3月	10月・3月	10月・3月
			実績	10月・3月	10月・3月	
			達成率	100.0 %	100.0 %	%
	東部循環市立病院線の利用者数(年間)	人	目標	89,790	43,000	50,000
			実績	29,111	47,164	
			達成率	32.4 %	109.7 %	%
			目標			
			実績			
			達成率	%	%	%

5 項目別分析

項目	分析結果	理由
必要性 (市民ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> ①必要性が高い	平成19年12月から運行を開始して以来、徐々にではありますが市民の足として定着してきています。また高齢化が進展するなか、環境にやさしく市民の身近な移動手段として期待されています。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④必要性はない	
妥当性 (市が行わなければならないか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①市が行わないといけない	高齢者等の移動支援や交通空白・不便地区解消に対する市民ニーズに対応するため、利便性の高い公共交通を確立していくことが必要であり、市民の日常生活の移動を支援する公共性が高い事業です。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば市が実施	
	<input type="checkbox"/> ③市が行う必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④市が行う必然性はない	
継続性 (引き続き実施する必要があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①継続性が高い	高齢化社会や環境問題等で、今後ますます市民の公共交通に対する関心、需要が高まってくるなかで、今後も引き続きコミュニティバスは、効率的に質の高いサービスを市民に提供していく必要があります。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば継続性がある	
	<input type="checkbox"/> ③継続性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④継続性はない	
効率性 (より効率的な改善が可能か)	<input checked="" type="checkbox"/> ①改善が可能である	コミュニティバスの運行にあたっては、沿線の地元自治会や、運行を委託している民間企業と、それぞれの役割のもとで協力しあいながら事業を進めることが可能です。
	<input type="checkbox"/> ②改善の余地がある	
	<input type="checkbox"/> ③改善の余地が少ない	
	<input type="checkbox"/> ④改善の余地はない	

6 評価

	活動状況 (課題も含む)	評価
活動状況 (課題も含む)	<p>東部循環市立病院線は、平成19年12月22日より運行を開始し、平成21年度は、43,000人の目標利用者数に対して、47,164人の利用がありました。また平成22年3月25日には、利便性向上及び利用状況に合った運行頻度とするため、「松が丘コース」については、一中通りを経由せず、茅ヶ崎ゴルフ倶楽部前を経由してラチエン通りに戻るルートに変更し、「小和田・松浪コース」については、12便から6便に減便する改善を実施しました。また平成21年度同路線に係る市の負担金が、利用者数増加による収入増から、前年度と比較し約142万円の減少となっています。ただし、小和田・松浪コースは、沿線住民の生活圏が辻堂駅か茅ヶ崎駅のため住民のニーズを満たしていないことが課題です。今後松が丘コースとの統合や、辻堂駅の乗り入れ等も検討することが必要と考えています。</p>	A
評価内容	<p>(事業の方向性 現状維持) 松が丘コースについては、平成20年度に行った復路の茅ヶ崎駅乗り入れにより、利用者が大幅に伸びたうえ、平成22年3月の改善により、走行距離が短縮されラチエン通りの沿線住民のニーズを広く拾えることから、今後も期待できる路線です。小和田・松浪コースは、1日の利用者が前年度と比較し約1.46倍増加したものの、1便平均にすると約3人であり、改善によって12便から6便に減便したことは合理的であったと考えています。今後この路線については、松が丘コースと一緒に改善を行うことや、辻堂駅の乗り入れ等も視野にいれた改善を検討していく必要があると考えています。</p>	